

神戸大学海技教育センター 実習船「白鷗」の体験乗船会を実施

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として、会員会社をはじめ、関係団体と連携し、商船や造船所の見学会などを「船ってサイコ〜」と題し実施し、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力をいれております。

今般、神戸大学大学院海事科学研究科 廣野准教授・藤本准教授のご協力のもと、7月に引き続き、9月16日（土）午前・午後に実習船「白鷗」の体験乗船会を開催し、一般公募より当選した小学生の親子など計29名が参加しました。

当日は生憎の天気となってしまいましたが、藤本准教授の指導下での子供達の操船実体験から始まり、子供達は大喜びで挑戦し、大興奮の中神戸港航行がスタートしました。

航行中は、廣野准教授より船や港の役割の説明を受けながら、停泊しているコンテナ船やタンカー、停泊するフェリー等に補油するバンカー船ほか、コンテナの積み降ろしを行うガントリークレーン、自動車専用船に自動車積み込まれる様子等、普段は目



▲藤本准教授と操船体験をする子供

にすることのできない光景を海側から間近に見ることができるとともに、神戸港が様々な機能を持ち、船や港が人々の暮らしと密接に関わっていることを知ることができました。

体験乗船会後に実施したアンケートでは、「船の操船が楽しかった」「海運事業の重要性がよく分かった」「普段見えない港の様子を間近で見られたことが印象に残った」等のコメントが寄せられ、海運への理解が深まる体験乗船会となりました。

当協会は引き続き会員会社と連携し、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。



▲神戸港を一望する参加者



▲停泊中のコンテナ船